

3・11を忘れない集い

映画監督の被災地の10年を上映

豊橋「さくらピア」

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で11日、東日本大震災の追悼、復興祈念行事「さくらピア 3・11を忘れない集い」があった。豊橋豊橋学校出身の映画監督、今村彩子さんが被災地の10年を追った最新作映画「きこえなかったあの日」を3回上映。障害当事者や関心のある市民、福祉関係者、監督のファンらが参加した。

【田中博子】

東北支援バザーや防災頭巾作り、避難訓練など、被災地を思うと共に当地の防災を考えようと、毎年異なる内容で催しを開く。昨年は新型コロナウイルス

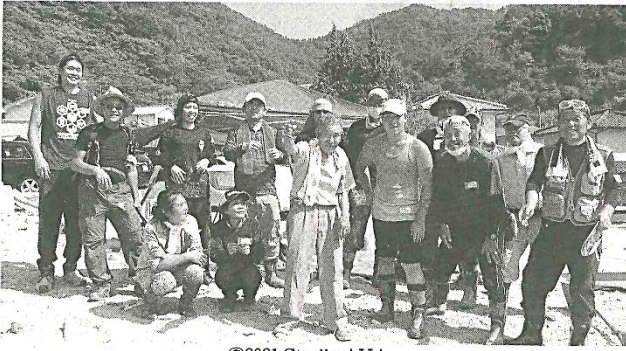
防止を徹底し、人数制限のうえで実施した。上映前、今村さんは豊橋は私にとって第二の古里。多くの方に応援いただいた。東日本大震災から10年。きょう皆さんと一緒に映画が見られることをうれしく思う「きこえなかったあの日」

活を取り戻す様子や周囲との絆など描くほか、西日本豪雨や熊本地震、新型コロナウイルスなどの影響、ボランティア活動、手話言語条例実現への取り組みも織り交ぜ、約2時間にとどめている。終盤にはコロナ禍の中での豊橋ネットワークの



引を忘れない集い
なかつたあの日上映
二年三月十日10時

震災直後から現在まで被災した聴覚障害者らを追い続けたドキュメンタリー。避難所のストレスや仮設住宅暮らし、徐々に安定した生



©2021 Studio AYA

東愛知新聞

2021年3月12日(金)



活動を紹介する場面もあり、参加者は食い入るように画面を見つめていた。

4月には出演者との約束だった「花見」のため被災地を訪れる予定の今村さん。「今後も年に1〜2回は現地に行つて撮り続ける。映像は『きこえなかったあの日』の後に、現況を伝える形で紹介したい」と話す。

「さくらピア」の本田栄子事務長は「毎年3月11日には防災を考える機会を設けている。節目には今村さんに来ていただくことが2年前からお願ひしていた。今後も3月11日には身近な防災を考える催しを続けたい」と話していた。

2021年3月15日(月)



今古東西

東日本大震災から10年たった3月11日、全国各地で追悼行事などがさまざまな関連イベントが展開された。豊橋市のさくらピアで、豊橋学校出身の映画監督、今村彩子さんが手掛けた作品「きこえなかったあの日」を見た▼映画は東日本大震

災の数日後から現地でカメラを回し、聴覚障害の被災者を10年追ったドキュメンタリー。さくらピアからの「震災のその後を紹介し」との依頼が制作につながったという▼情報弱者である聴覚障害者が頼ったのは視覚。震災後の停電で情報を得る手段を失ったことを示す短い場面には血の気が引いた。被災者が周囲とつながりを持ち前向きに暮らす様子から、勇気や希望ももたらした▼10年前の監督の取材で、小学生の時に見た「E.T.」から元氣や勇気をもらい「今度は自分が元氣や勇気を与えたい」とこの道を志した話を聞いたのを思い出した。機会があればぜひ観賞を。ちなみに映画には弊社編集長も短く登場する。(田)